

「人事を尽くして聖霊を待つ」 使徒言行録 1:12-14,21-26

I 導入部

おはようございます。6月の第一日曜日を迎えました。今日も愛する皆さんと共に礼拝をささげることができますことを感謝致します。暑くなったり、涼しくなったりと気候の変化で体がついていかないという方々がおられるのかも知れません。先週、私は鹿児島に行っておりました。南九州なので、暑さを覚悟して出かけて行きましたが、なんと、とても涼しい週を過ごすことができました。北海道では、39度を観測するというので、北海道だから、涼しいという今までの考えや常識は改めないといけないように思います。

今まで常識であったことが常識でなくなる。考えられなかったことが起こるといふ今日この頃です。先週、カリタスの生徒さんやご父兄が尊い命を奪われました。本当に痛ましい事件です。登戸はここから近い場所です。イエス様にしか解決がないと思いますので、私たちはイエス様を通して、十字架と復活を通して与えられる福音の恵みを語り伝えたいと思うのです。一人でも多くの人々に、福音による救いを語る使命、責任を痛感しているのです。誰よりも、イエス様が心痛めているのだと思うのです。悲しみの中にあるご家族や、学校関係者、特に生徒の皆さんの上に、主の慰めと励ましをお祈りいたします。

さて、今日は、来週のペンテコステ礼拝を前にして、使徒言行録1章12節から14節、21節から26節を通して、「人事を尽くして聖霊を待つ」という題でお話し致します。今日から司会者と説教者はノーネクタイでさせていただきます。

II 本論部

一、イエス様にあって一つとなる

イエス様は、弟子たちに「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」と言われ、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」と約束なさいました。そして、天に上げられたのです。

5月30日はイエス様の昇天の記念日です。イエス様は弟子たちに、「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。」と言われたように、イエス様は弟子たちの前で天に上げられたのです。弟子たちは、復活して40日間ご自分を自分たちに示されたイエス様が見えなくなって不安になったでしょう。心配になったでしょう。だからこそ、イエス様の約束の言葉を握りしめて、エルサレムに戻ったのです。イエス様のご命令通りに、エルサレムに留まるために。ユダを除く11弟

子とイエス様のお母さんとイエス様の兄弟姉妹、婦人たちが共に集まっていたのです。集まって何をしていたのかというと、「心を合わせて熱心に祈っていた。」のです。新改訳聖書では、「みな心を合わせ、祈りに専念していた。」 口語訳聖書では、「心を合わせて、ひたすら祈をしていた。」とあります。リビングバイブルには、「祈り会を始めました。」とあります。イエス様が弟子たちに命令されたように、エルサレムに戻り、兄弟姉妹と共に、心を合わせて、熱心に、ひたすら祈りに専念していたのです。15節には、「百二十名ほどの人々が一つになっていた。」とあります。

私たちは、一つになるということは難しいことであることを知っています。人数が多ければ多いほど、いろいろな人がおり、いろいろな考え方を持つ人がいます。百二十名の中には、男性も女性も、親も子も、兄弟姉妹も、先輩後輩も、いろいろいたでしょう。同じ思いを持つとか、同じ考えになるという事は、本当に困難です。しかし、彼らは、イエス様が天に帰られる前に語られた言葉、「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」という言葉に従いました。「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。」と言われたように、イエス様は去って行かれたので、弁護者、聖霊を送るという約束を信じて祈りました。そして、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」と言われた言葉を信じて、イエス様の証人として力強く立てるように、聖霊が降ることを待ち望み、祈ったのです。彼らは、そのことにおいて一つになったのです。私たちも、イエス様のお言葉、聖書の言葉、イエス様の約束を信じて、心を一つにして祈りたいと思うのです。

二、待つことを大切にす

イエス様は、多くの弟子たちの中から12人を選びました。夜を徹して、熱心に祈り、12人を選ばれたのです。それは、12人をイエス様のそばに置き、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権威を持たせるためでした。それは、イエス様を証しするためでした。しかし、弟子たちは、イエス様の近くで、奇蹟の業を見ても、すぐに忘れてしまいますし、イエス様の言葉を聞いても、自分に都合の良い用にしか聞かないし、聞きたくないことは、「今日、耳日曜」と聞かなかったのです。かえって、イエス様の権威ある言葉を聞き、驚くべき奇蹟の業を見て、イエス様の弟子であることに誇りを持ち、人々の上に立ちたがり、権威を振りかざすような、この世的な生き方、イエス様の低きに生きる生き方とは、正反対の歩みをしていたのです。ですから、イエス様の弟子たちへの訓練は失敗だと思えるようなものでした。

この弟子たちが、このままではこの世に通用しないのです。このままの姿で、この世に遣わされてイエス様の証人にはなれないのです。聖霊で武装する、聖霊の力を受ける必要があったのです。彼らは、待つ必要がありました。「約束されたものを待ちなさい。」と言われて、すぐに与えられるのかも知れないと思ったのかも知れませんが、私たちは、なかな

か待てない者です。自動販売機で飲み物を買ったことがあるでしょうか。お金を入れて、商品が、すぐに出て来ないとすぐにキレルのです。待てないのです。イライラするのです。30秒も待てないのです。すぐに、自動販売機をたたいたり、けったりする人もいます。私たちは、カップラーメンを食べるにも3分間待てないのです。すぐに食べたいのです。

トマスはイエス様に会うためには、1週間待つ必要がありました。私たちは、イエス様が天に上られてから10日目に聖霊が与えられると聖書を通して知っていますが、弟子たちはわかりませんでした。私たちは、二日待てとか、三日待てと言われたら、待てるかも知れません。しかし、待ちなさい、と言われると、いつまでとなるのです。その期間を、待つ時間を知りたいのです。

私は、病院によく行くのですが、以前は、待っている時間が本当につらかったです。今でもつらいですが、呼び出される順番が電光掲示板に示されて、自分の診察の順番がわかるようになり、少しは待つことに我慢ができるようになりました。何もないとやはり、待つという事は、疲れます。イエス様は待つことを命令されました。そして、百二十名の人々は、ただ待つのではなく、イエス様の言葉を信じて、イエス様の約束に期待して、心を合わせて祈ったのです。どこまでも、自分の何かではなく、神様を信じて待ったのです。

私たちも、祈りが聞かれない。思うようにならない。悪い傾向ばかりのように思えると、感じることもあるのかも知れません。しかし、イエス様は、共にいると約束し、あなたを助ける、あなたを守ると約束しておられます。そのイエス様の言葉と約束を信じて、約束の言葉とイエス様に目を留めて、イエス様の時、神様の時、カイロス、神様の介入を待ち望みたいと思うのです。

三、後は全て神様にお任せする

弟子たちは、イエス様のご命令に従い、イエス様の言葉を信じて、心を合わせて、熱心に祈りました。祈りに専念したのです。それと共に、イエス様の12弟子の中で、イエス様を裏切って死んだユダの欠けを補おうとするのです。アブラハム、イサク、ヤコブとは、旧約の信仰者の歴史を示します。このヤコブの子ども12人が、イスラエルの12部族のもとになりました。この12の数は、イスラエルという大きな民族をあらわします。ユダヤ人にとって、大切な12という数を大切にするために1人を選ぼうとするのです。

その選びの条件は、21節、22節にあります。「そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」百二十名の人々が祈っていましたが、イエス様の弟子の一人として、ふさわしい人2人を選んだのです。一人は、「バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフ」、もう一人は、「マティア」という人でした。二人を紹介するのには、差があります。バルサバという名はあだ名であり、ユストとは、ラテン語での紹介、ヨセフとはヘブライ語での紹介です。マティアはヘブライ語だけの紹介。マティアとは、マタイという名前のギリシャ語、ラテン語形がマティアという言葉になるようです。

聖書は順番を大事にします。ですから、「バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフ」が

最初に来ているという事は、ヨセフの方が格が上であり、より期待されている人物のように思います。ですから、人間的に見るならば、先に名前があり、その名前の説明が多くある「バルサバと呼ばれ、ユストともいうヨセフ」の方が期待されている。選ばれてほしいと思われていたのではないのでしょうか。2番目の、名前の説明もあまりないマティアは、選ばれるような人ではなかったのかも知れません。

イエス様の11人の弟子たちは、どちらがふさわしいのか、どちらを選ぶべきなのか、使徒としての任務を継ぐのはどちらなのかを神様に祈り、くじを引いたのです。このくじとは、私たちが何かの順番を決める時のくじや何かが当たるくじとは意味が違います。旧約聖書にはイスラエルの初代の王を決めるのに、くじを引きました。神殿で行われる儀式や祭司の勤めもくじで決められていたのです。ここでも、イエス様の12弟子、使徒を選ぶのにくじを引いたのです。どのようにしたのかと言うと、候補者の名前を小石に書いて、名前を書いた石をツボに入れ、ツボをゆすって落ちて来た石、そこに名前が書かれている人が選ばれるのです。それが、神様が選ばれたということなのです。今回はくじは、大方の予想を外れて、マティアが選ばれたのでした。そして、このマティアが12人の一人として使徒としての働きをするようになるのです。

人の思いと神様の思いとは違います。人間的には、選ばれそうにない、選ばれてほしいと思われなかったマティアが、12使徒として選ばれ、用いられることになるのです。この後、マティアという名前はどこにも出て来ません。そんなに大きな働きはしなかったのかも知れない。しかし、イエス様の語られた聖霊を受けるために、このマティアが12使徒のひとりとして選ばれることが必要だったのです。このくじのためにだけでも、マティアは立てられたのだと思うのです。必要のない人は誰もいません。神様は私のように何のとりえもない。何もできない、小さいし弱いと思っている人、そう、あなたを神様の働きのために選ばれるのです。そう、ここに、あなたがいるということが、すでにイエ様に選ばれているということなのです。

Ⅲ 結論部

イエス様の約束の通りに、イエス様が昇天されてから10日目に聖霊が与えられます。それが、来週のペンテコステ礼拝です。約束の聖霊が与えられるためには、弟子たちは、エルサレムにとどまり、イエス様の約束された弁護者、聖霊を与えられることを期待して、心を合わせて祈りました。そして、欠けた12使徒の一人を主が選ばれました。人事を尽くしました。やるべきことは全てやりました。後は、神様の、イエス様の約束を待つだけです。聖霊を待つだけです。聖霊に満たされるのを待つのです。そして、彼らは聖霊をいただいて力をいただいて、イエス様の十字架と復活の証人として立っていくのです。

私たちも、私たちの罪のために十字架にかかり、血を流し、死んで葬られ、復活されたイエス様を証しするために、聖霊に満たされるのです。何が起こるか分からない恐ろしい時代に私たちは生きています。だからこそ、イエス様の救いを、イエス様の愛と恵みを伝えたいのです。この週もイエス様があなたと共におられますから、大丈夫です。